

## アプローチの腕の振りと顎の使い 安永三郎 05, 10, 12

- ・アプローチをしてくると、やや早めに板を踏みに入るそのときの腕は、肩より上にある。上というより肩と平行にある。やや前傾しているので腕が上にあるように見える。  
3群の時は、この腕がもう少し下まで来ている。従ってスイングがやや早い。  
このときの脚は膝が曲がって、無意識に下駄を履いて板に合わせようとしている。
- ・Bジャンプの時の手の位置に来たとき顔が戻る。顎がフラットになる。  
膝が徐々に伸びていき、腕は完全に上部にくる。しかし腕は伸びていない。肘が曲がって指先が上部に来ている。  
目線は板から飛び出す直前では、3群の場合、前方の斜め上を見ている。板から離れる動作に入ったときあるいは板から離れたとき上を向いている。このときの腹とか膝のゆるみは考えないものとする。
- ・完全に飛び出してから演技に入っている。ヘッドバックによってパイクの入りをしている。（3群の場合）
- ・前宙返り系も上体の角度の差はあるが顔をフラットに戻す。
- ・ここで顎の使いとってはいるものの、実際には顔の使いといってもよいと思う。
- ・ダウンスウィングの時に上体がぶれるのは、肩の固さがあるからである。腕を楽に振れ、楽にふれというのはいいけど、上体のぶれまで出して振るのはどうかと思う。